

千葉県感染症発生動向調査情報

2019年 第15週 (4/8-4/14) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	15週	14週	13週	12週
小児科	18	18	18	18
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	28	28	28	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千 葉 市				千葉県 4/1-4/7 14週	
		注意報	4/8-4/14	4/1-4/7	3/25-3/31		3/18-3/24
			15週	14週	13週		12週
小児科	RSウイルス感染症		4 0.22	1 0.06	3 0.17	3 0.17	27 0.20
	咽頭結膜熱		1 0.06	2 0.11	1 0.06	3 0.17	19 0.14
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	55 3.06	56 3.11	42 2.33	57 3.17	321 2.38
	感染性胃腸炎		97 5.39	106 5.89	83 4.61	88 4.89	615 4.56
	水痘		8 0.44	4 0.22	12 0.67	19 1.06	46 0.34
	手足口病		1 0.06	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.01
	伝染性紅斑	○	22 1.22	12 0.67	8 0.44	14 0.78	113 0.84
	突発性発しん		12 0.67	10 0.56	13 0.72	14 0.78	62 0.46
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.01
	流行性耳下腺炎		0 0.00	2 0.11	2 0.11	1 0.06	11 0.08
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		34 1.21	27 0.96	24 0.86	29 1.04	180 0.85
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		1 0.20	1 0.20	2 0.40	2 0.40	16 0.46
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	3 0.33
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		2 2.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	4 0.44

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(14件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	IGRA検査	結核	女性	70歳代	病原体遺伝子の検出
結核	男性	40歳代	病原体の分離・同定等	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	60歳代	細菌の分離・同定及び薬剤耐性の確認
結核	男性	50歳代	病原体の分離・同定等		女性	70歳代	
結核	男性	60歳代	病原体の分離・同定等	百日咳	男性	10歳未満	抗体の検出
結核	女性	10歳未満	ツベルクリン反応等	百日咳	女性	50歳代	抗体の検出
結核	女性	20歳代	病原体等の検出等	風しん	男性	50歳代	病原体遺伝子の検出
結核	女性	40歳代	IGRA検査	風しん	男性	60歳代	血清IgM抗体の検出

・第15週は、結核8件(51)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症2件(4)、百日咳2件(33)、風しん2件(21)の報告があった。

※ ()内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

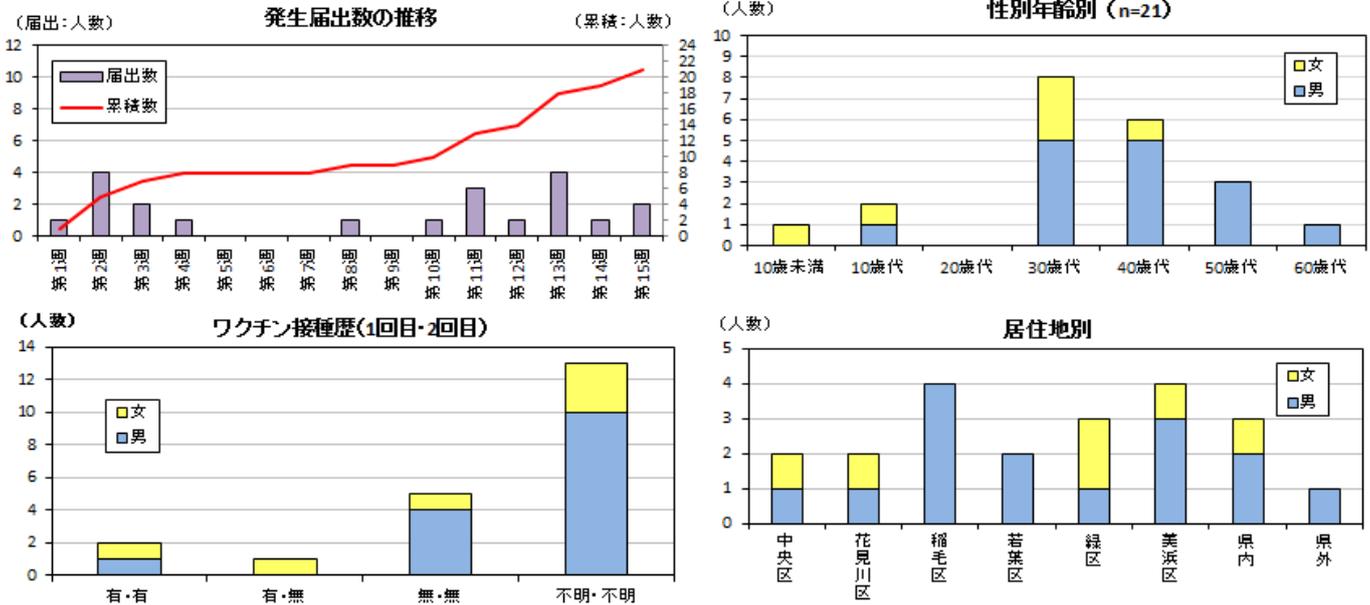
定点当たり報告数 第15週のコメント

＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞前週より若干減少し3.06となった。過去10年の同時期と比べると多い。
 ＜伝染性紅斑＞前週より増加し1.22となった。過去10年の同時期と比べると2015年と並んで最多。

トピック

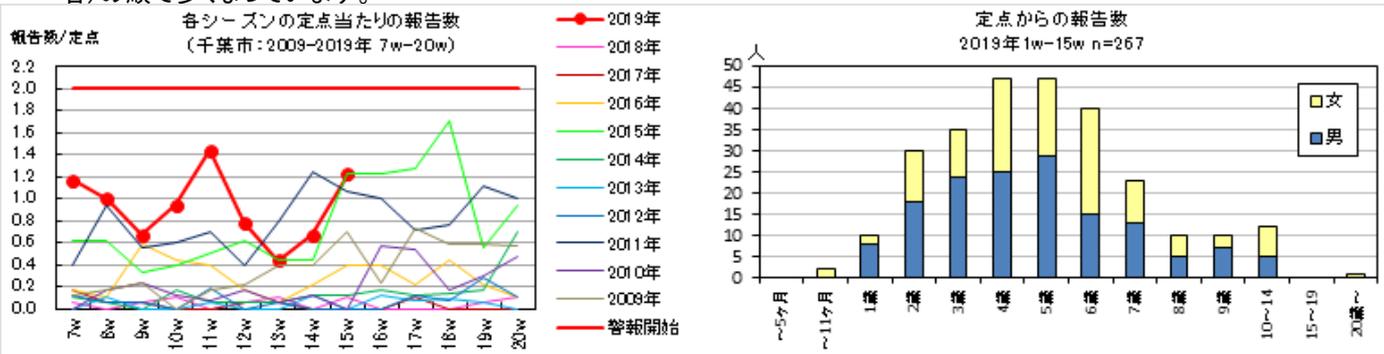
＜風しん＞

全国レベルの第14週の累積報告数は1202件となり、昨年同時期と比べるとほぼ200倍となっています。都道府県別では、東京都、神奈川県、千葉県順で多く、関東地方で多く報告されています。千葉市では第15週に2件の発生届があり、2019年の累積報告数は21件となりました。性別では男性が71.4%（15名）、女性が28.6%（6名）となっており、年齢階級別では30歳代（38.1%：8名）、40歳代（28.6%：6名）、50歳代（14.3%：3名）の順で多く、30歳代～40歳代の男性が中心となっています。ワクチン接種歴は、無し又は不明が全体の80%を上回っています。



＜伝染性紅斑＞

全国レベルの第14週の定点当たりの報告数は0.56で、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、石川県、福岡県、青森県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.84で、全国レベルと比べると多くなっています。千葉市の第15週は前週より増加し1.22となり、過去10年の同時期と比べると2015年と並んで最多となっています。区別の発生状況は、緑区(2.5/定点)で流行発生警報開始基準値(2.0/定点)を上回り最多で、同区の2歳及び7歳で最も多く発生報告がありました。2019年第1週から第15週までの累積報告数は267件で、性別では男性が55.8%（149名）、女性が44.2%（118名）となっており、年齢階級別では4歳及び5歳（共に17.6%：47名）、6歳（15.0%：40名）の順で多くなっています。



＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

全国レベルの第14週の定点当たりの報告数は1.94で、過去10年の同時期と比べるとやや多めとなっています。都道府県別では、鳥取県、新潟県、宮崎県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は2.38で、全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の第15週は前週より若干減少し3.06となりましたが、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、緑区(6.5/定点)で流行発生警報終息基準値(4.0/定点)を上回り最多で、同区の2歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2018年第36週から2019年第15週までの累積報告数は1378件で、性別では男性が55.1%（759名）、女性が44.9%（619名）となっており、年齢階級別では4歳（15.1%：208名）、5歳（13.4%：185名）、6歳（12.1%：166名）の順で多くなっています。

